

見てみよう！歴史地震記録と 旬のあいち < 5 月 >

◆ 日泰寺（関東大震災の史跡）

所在地：名古屋市千種区城山新町他

交通：地下鉄名城線「自由ヶ丘」駅周辺



関東大震災供養堂



惨死者供養塔

覚王山日泰寺は、シャム（暹羅）国から釈迦の御真骨を拝受する際に、仏骨奉安の寺院として超宗派で建立されたお寺で、日本で唯一の超宗派のお寺として、3年交代で各宗派の管長が住職を務めています。

明治37年（1904）の建立時は日本と暹羅の友好の象徴として覚王山日暹寺として誕生し（覚王は釈迦の別名）、昭和24年（1949）のタイ王国への改名に合わせて、日泰寺に名称変更しました。大正12年（1923）の関東大震災で愛知県の人々は、官民挙げての救済費の支出や救援物資の輸送、救護班の派遣など、惜しめない協力を行っています。当初、避難者に対して名古屋市は、名古屋駅前広場に応急宿舎を用意しましたがとても追いつかず、寺院や教会、

富豪はもとより、一般市民も貧者の一燈に至るまで、宿舎の提供を申し出る者があつたを絶たなかったそうです。尾張地方は明治24年（1891）の濃尾地震の際に全国から多大な支援を受けており、その恩返しの気持ちが多分にあったようで、今回の地震で、神戸の人がたくさん東北へ応援に行ったのと似ていますね。

そうしたことから、震災に遭遇した人々に対する県民の同情心は非常に篤く、そのことを物語るように名古屋市内には今でも関東大震災の慰霊堂や慰霊碑が残されています。日泰寺には「関東大震災供養堂」（写真上左）が奉安塔入口左側にあるほか、奉安塔の北には「蒲焼町（名古屋市中区）の慰霊碑」（写真下）が、地下鉄自由ヶ丘駅のすぐ近くにある八十八ヶ所霊場には、「惨死者供養塔」（写真上右）が残されています。

いま首都直下地震が起これば、あるいは富士山の噴火が起これば、この地域は当時よりたくさんの人を受け入れなければなりません。

特に関東地方にご親戚のある方は、普段から少しでも、受け入れる心の準備をしておいてください。



蒲焼町の慰霊碑



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 日泰寺の周辺には…

● 大幸八幡社（震災記念碑）

所在地：名古屋市東区大幸

交通：地下鉄名城線「砂田橋」駅北約400m

濃尾地震や、堤防の決壊による水害が発生したものの、天皇の救恤や各地の義捐金によって地区が復旧し、救援を感謝することが記されています。（救恤：きゅうじゅつ。困っている人に見舞いの品などを与えて救うこと。）



● 照遠寺

所在地：名古屋市東区東桜

交通：地下鉄東山線「新栄」駅北西約300m

照遠寺は、慶長15年(1610)に清州越して名古屋に移ったお寺です。境内には大正12年(1923)関東大震災の供養碑（写真左の碑）と明治24年(1891)濃尾地震の供養碑（写真右の碑）があります。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 日泰寺の縁日

毎月21日は縁日です。普段は静かな覚王山ですが、縁日の日には日用品や野菜、干物、漬け物から雑貨、だんごやお好み焼きなどいろいろなお店が参道に並び、ちょっとレトロな雰囲気になります。この日だけ見ることのできる仏様もあり、非常に多くの方が日泰寺を訪れます。

シルバーなイメージの縁日ですが、最近では参道にカフェや専門店もでき、若い方々の姿も目にする事ができます。



また覚王山では、季節ごとにそれぞれ春祭、夏祭、秋祭が、10月から11月にかけてはまちがアートでいっぱいになる覚王山参道ミュージアムが開催され、盛り上がりを見せています。

5月のあいちの花

平成26年5月のあいちの花はトルコギキョウです。

トルコギキョウは北アメリカ中央部原産のリンドウ科の植物で、国名のトルコや花名のキキョウとの関係はありません。

初夏から秋にかけて開花し、花もちも良いので、夏の切花としても人気の高い花です。紫色が基本色でしたが、最近では、桃色、藤色、白色、複色とカラフルになり、花の形も、一重、二重、八重と種類豊かになっています。



● ブレイクタイム ●

♪ 鬼まんじゅう

鬼まんじゅうはちょっとマイナーな名古屋名物のお菓子で、薄力粉と砂糖を混ぜ合わせた生地、角切りのさつま芋を加えて蒸したお菓子です。角切のさつま芋が見えている様子が、鬼やその金棒をイメージさせることから、鬼まんじゅうと呼ばれています。生地はもちもちとして素朴な味わいが特徴です。

覚王山には、名古屋で鬼まんじゅうと言えばここ、と言われる梅花堂があります。昭和初期の創業当時から販売していて、ファンが増え続け看板商品として定着しています。九州や四国産のサツマイモを使用し、自然の風味たっぷりの味です。店頭に並ぶまもなく飛ぶように売れていきますので、確実に買いたい方は電話予約がおすすめです。



『梅花堂』

所在地：名古屋市千種区末盛通1-6-2

交通：地下鉄「覚王山」駅 徒歩2分

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成26年5月）